

## 世界的な出生率の低下と先進国の人口減少

### ◆世界の人口は81億人を突破、先進国の人口減少を開発途上国が補う

2024年4月、国連人口基金（UNFPA）は「世界人口白書2024」を発表した。24年の世界の人口は23年に比べ0.77億人増加し81.19億人となった。先進国の人口（総人口12.77億人）が対前年0.2億人減少する一方で、開発途上国の人口（総人口68.42億人）が対前年0.66億人、後発開発途上国の人口（総人口11.78億人）が対前年0.31億人増加した。女性が生涯に出産する子供の数に相当する世界の合計特殊出生率（TFR）は2.3と人口維持に必要とされる2.07を超えている。一方、先進国のTFRは1.5、開発途上国が2.4、後発開発途上国が3.8となっている。UNFPAは、世界の人口が2100年に109億人でピークに達すると予測している。一方、米国ワシントン大学保健指標評価研究所（IHME）は、世界の人口が2064年に97.3億人でピークに達し、以後減少に転じると予測している。

### ◆東アジアの出生者数の減少傾向が続く

日本、韓国、中国および台湾の出生者数の減少が続いている。コロナ期（20～21年）前後での減少傾向に変化はない。TFRの低下も続いている。中でも、韓国のTFRはOECD加盟38カ国中の最低となっている。日本、韓国、中国は人口の自然減を補う移民が少なく総人口の減少も続いている（表1）。

表1 東アジアの人口動態

	出生者数(万人)					合計特殊出生率				
	2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023
日本	87	84	81	77	73	1.36	1.33	1.30	1.26	1.20
韓国	30	27	26	25	23	0.92	0.84	0.81	0.78	0.72
中国	1,465	1,200	1,062	956	902	1.50	1.28	1.16	1.09	1.07
台湾	18	17	15	14	14	1.05	0.99	0.98	0.87	0.85

	人口(億人)		人口の対前年増減(万人)			婚姻数(万件)
	2022	2023	総人口増減	自然増減	社会増減	(対前年増減)
日本	1.25	1.24	-76	-85	9	47(-6.0%)
韓国	0.52	0.51	-20	-12	-8	19(+1.0%)
中国	14.12	14.10	-208	-208	0	768(+12.4%)
台湾	0.23	0.23	16	-7	23	12.5(+0.2%)

(各種資料を元に ARC 作成)

東アジアでは、結婚を出産の前提とする傾向が強いため、婚姻数が重要な指標

となる。23年の日本の婚姻数は22年に比べ6.0%減少した（表1）。一方、中国の婚姻数は大きく増加した。24年が生年として縁起の良い辰年になるため23年に婚姻数が増加したと考えられており、24年に出生者数の大幅な増加が見込まれている。台湾は、人口の自然減を補う移民の増加があり、人口が増加している。

◆米国と西欧主要国の出生者数の減少を補う移民

米国、英国、ドイツ、フランス、イタリアは、コロナ期の出生者数の減少とTFRの低下が21年に一旦反転後、22年に再び減少・低下に転じ、23年は出生者数の減少とTFRの低下が加速した（表2）。上記の国では、移民などによる社会増が人口の増加に寄与している。

表2 米国と西欧主要国の人口動態

	出生者数(万人)					合計特殊出生率				
	2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023
米国	375	361	366	367	359	1.71	1.64	1.66	1.65	1.62
英国	71	68	69	66	未発表	1.63	1.56	1.61	1.49	未発表
ドイツ	78	77	80	74	69	1.54	1.53	1.58	1.46	1.37
フランス	71	70	70	69	64	1.83	1.83	1.80	1.76	1.64
イタリア	42	40	40	39	38	1.27	1.24	1.25	1.24	1.22

	人口(億人)		人口の対前年増減(万人)		
	2022	2023	総人口増減	自然増減	社会増減
米国	3.33	3.35	163	51	112
英国	0.68	未発表	57(2022年)	2(2022年)	55(2022年)
ドイツ	0.84	0.84	40	-33	73
フランス	0.66	0.66	21	1.7	19
イタリア	0.59	0.59	-3.3	-28	25

(各種資料を元に ARC 作成)

◆東南アジアやインド、ブラジルでも出生者数が減少

人口大国であるインドとインドネシア、ブラジルも出生者数の減少傾向が続いている（表3）。インドは中国を抜いて世界最多の人口大国となったが、TFRが人口維持に必要とされる2.07を下回っている。総じて、世界の出生者数と人口の減少は、コロナパンデミック後にむしろ加速したといえる。 【毛利光伸】

表3 東南アジア、インド、ブラジルの出生者数等の変化

	出生者数(万人)					合計特殊出生率				
	2019	2020	2021	2022	2023	2019	2020	2021	2022	2023
インドネシア	456	453	450	未発表	未発表	2.22	2.19	2.18	未発表	未発表
タイ	62	59	54	50	52	1.25	1.18	1.16	1.00	1.03
シンガポール		3.9	3.9	3.6	3.4		1.1	1.12	1.04	0.97
フィリピン	167	153	136	146	未発表	1.96	1.78	1.57	1.65	未発表
インド	2,358	2,314	2,311	2,306	2,316	2.11	2.05	2.03	2.01	2.00
ブラジル	289	273	271	262	253	—	—	1.53	1.44	1.39

(各種資料を元に ARC 作成)